

～CIR Delegation Report～

国際交流員 アンドリュー・クルーパ

ボストンローガン国際空港には、遠い旅から帰ってきた時の思い出がたくさんあります。訪問団を歓迎する「ようこそ」の横断幕を掲げてみんなが来るのを待ちながら、私は、チリ、ハンガリー、ルーマニア、アイルランド、そして2012年の七飯町と、自分の数々の旅行のことを思い出しました。

訪問団が着いてからは、親善昼食会やコンコードカーライル高校のバンドとの演奏、コンコード町内やボストン市、そしてセーラム市の有名な場所への観光案内などの恒例の行事をこなしました。短く言えば、私たちがなりのおもてなしができたということです。コンコード町内を周った時に、ツアーガイドの役をする重役も担いました。コンコードの歴史はアメリカ人が高校の歴史の授業で習うものと少し違うと私は思います。コンコードは、ワシントンやジェファーソンなど革命を起こしたとして知られる有名な人たちではなく、普通の人々が正しいと思う信念から革命を起こした場所です。文学界の革命でも有名なコンコードは「2つの革命が起きた町」として、外国からも多くの人々が訪れるような珍しい町です。誰にでも自分の家があり、良いと信じるものがあります。



ツアーガイドとしてミニットマン歴史公園を案内

今年の訪問団の皆さんと知り合えて嬉しかったです。多くのアメリカ人は他の国から来る人々と知り合うことがありません。ですから、このように素晴らしい方々が来てくれて交流ができるのは特別で素晴らしいことです。訪問団の皆さんは、心温まる思い出と、世界が多様であることへの大きな感謝の気持ちを残してくれました。



歴代の国際交流員と
(左から2代目のモニカさん、5代目のウィットニーさん、10代目のクリスさん、そして自分)